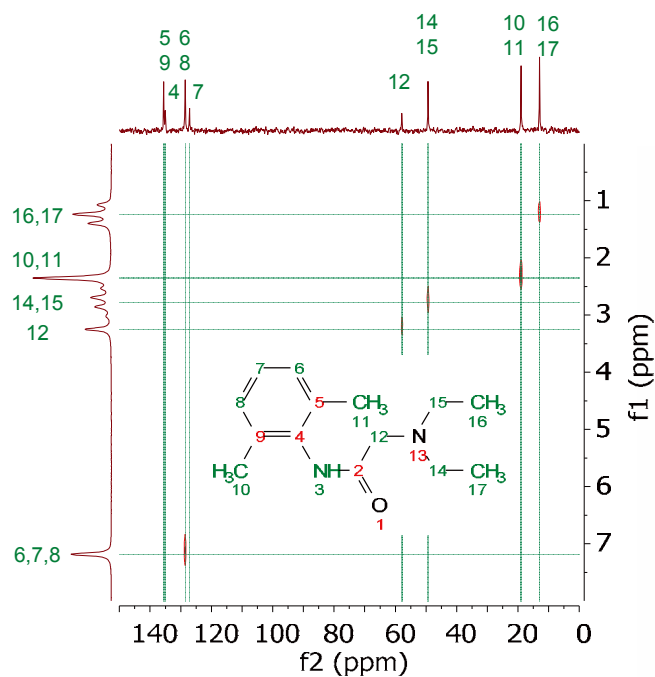


Carbon/炭素-13 ベンチトップNMR

分子のルーチン分析において重要要素を担う ^{13}C -NMR。高機能で独自の感受性を備えたSpinsolve Carbonはベンチトップで行うプロトンカーボンNMR測定を可能にし、またラボに ^{13}C -NMRを取り入れることができる順応性およびコスト効果が高い最高クラスのスペクトロメータです。



リドカインのHETCORスペクトル



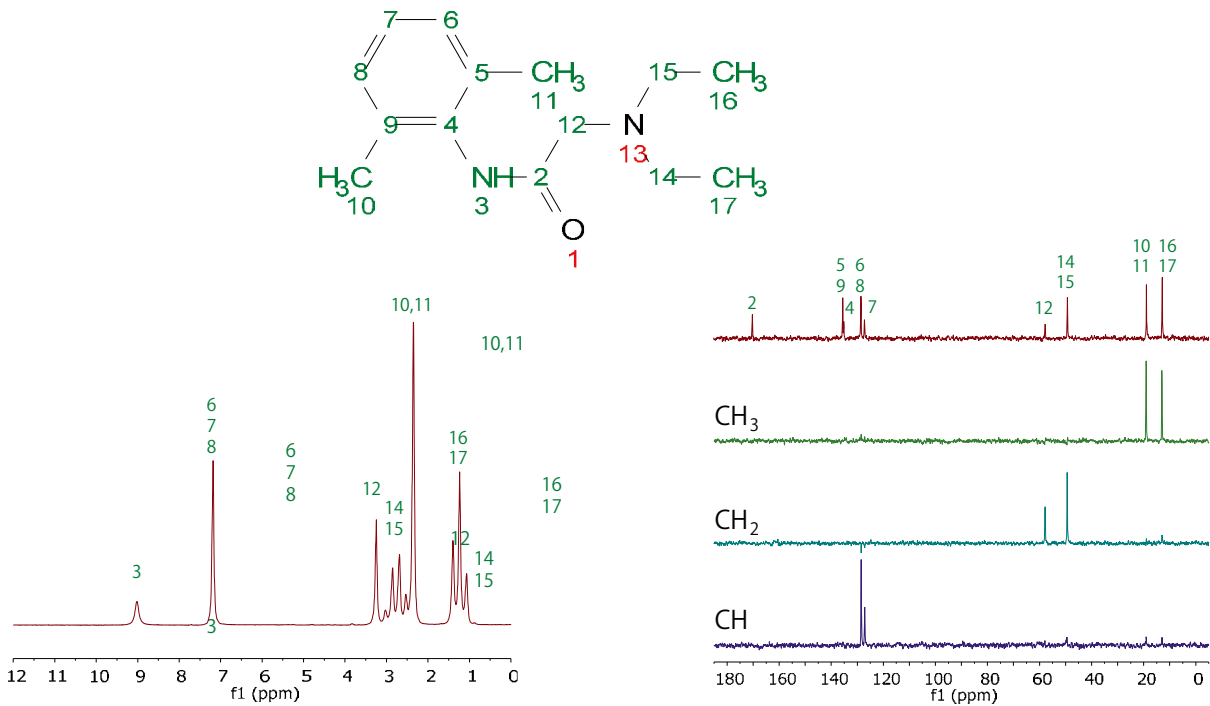
Who

- 医薬品および製薬研究のケミスト
- 低分子化合物の研究者
- 実践的な実験クラスを行う指導者
- 有機化学指導者
- 反応モニタリングを行う合成化学者
- 化学専攻の研究生および院生

Why

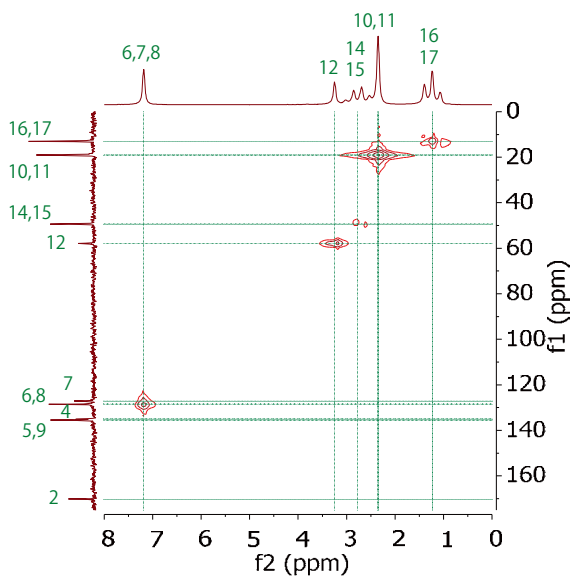
- 冷媒不要
- 速い観測スピード
- 利便性
- 低価格
- ベンチトップで使用可能
- 堅牢
- 手入れしやすい
- 簡単な操作
- 高い機能性

Spinsolve Carbonを使用したリドカインNMRスペクトルの例

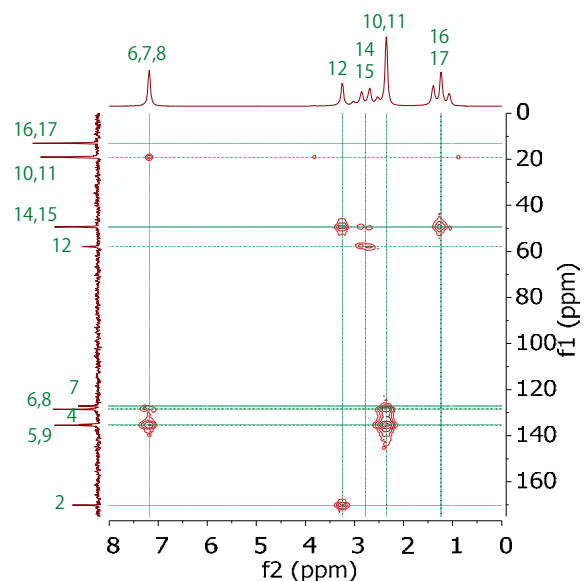


ピーク帰属、1次元プロトン

1次元炭素では全ての炭素でピークを示した(列1)。DEPTを使用したスペクトル編集ではCH₃、CH₂およびCH基のシグナルが見られる(列2~4)。



単結合のプロトン-カーボン間の相互関係を示す2次元HMQC

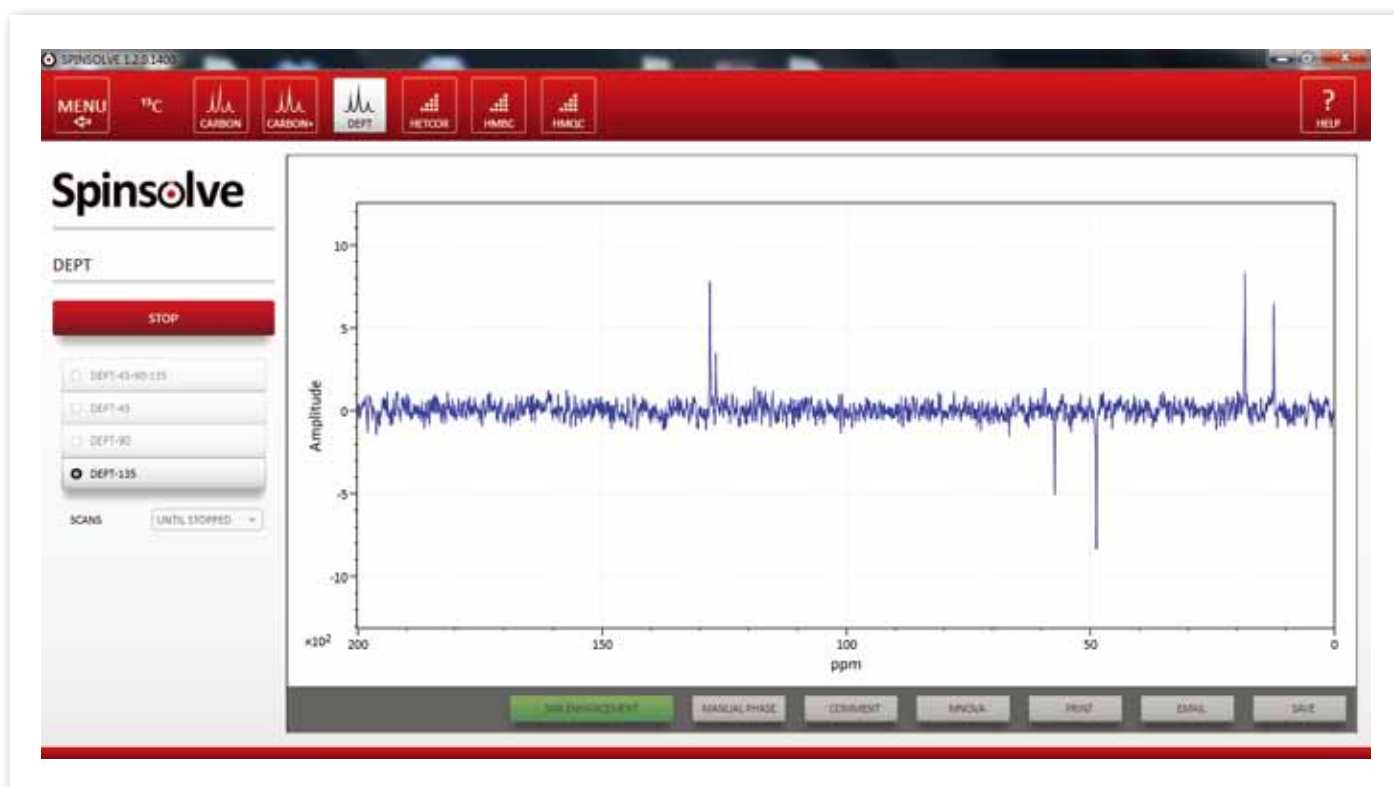


広範囲のプロトン-カーボン間の相互関係を示す2次元HMBC

ソフトウェア

シンプルデザイン

- ワンボタンで操作可能
- シンプルでわかりやすいグラフィカル・インターフェース
- 操作が簡便
- アクセス制御パラメータ
- 複雑な従来のNMRを簡易化



クロロホルム-d中の2Mリドカインを示すDEPT-135スペクトラム。逆向きのピークはCH₂カーボン

特長

- 1次元の¹H、¹⁹Fおよび¹³C解析
- スタンダードな5mmNMRチューブ
- 2次元COSYおよび同種角J分解スペクトロスコピー
- T₁およびT₂緩和時間解析
- DEPTを使用したスペクトル編集
- コンポジットパルスを使ったデカップリング
- HETCOR、HMBCおよびHMBCを使用した2次元の異種間相互作用解析



Spinsolve[®] carbon



仕様

- 周波数：42.9MHzプロトン、10.8MHzカーボン
- 解析：線幅50% < 0.7Hz (16ppb)
- 線形：線幅0.55% < 20Hz
- 大きさ：L58×W43×H40cm
- 重さ：約55kg
- 磁石：永久磁石、冷媒不要
- 漂遊磁場：< 2G、システム周辺全域



その他のSpinsolve製品

Spinsolve[®] for education



- 1次元プロトンのみ
- 低価格
- アップグレード可

Spinsolve[®]



- ¹Hおよび¹⁹F核種
- 緩和時間の解析
- 2次元COSYおよびJRES
- 反応モニタリング

「生成した化合物の解析だけでなくNMRスペクトルも可能にします。
学生実験を研究と製造により適合させ、また化学に対する意欲を高めます」

メルボルン大学 化学学部長、フランセス・セパロヴィック教授

お見積り、デモ使用または試料測定をご希望の方はお気軽にご連絡ください。

製造元

Magritek Limited www.magritek.com

国内代理店

株式会社朝日ラボ交易



〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-8-4
Tel 078-335-8613
Fax 078-335-8614
Website <http://www.asahilab.co.jp>

お問合せは info@asahilab.co.jp にご連絡願います